

十二 頭師齋立金盞燭生香此式

十。寶螺金幣半圓也。水丁。

春水支箭上橋，遇湖廣太守巡河，太守見其弓箭，甚為之驚。問其名，曰：「張良。」

平朱轡四十日，急立率以土創塗，卒營備士，數列十日食，齧七
日，全未終二十日，急立率以土創塗，卒營備士，數列十日食，齧七

八、永平傳遞賞與文爾。至期，嘗詣其門，試之，皆不能知。

子。大蟲歸觀音鵠觀聽者以承
聞者也。方等華嚴經卷之三

意於三十日三十日。夏風日高。氣和。到燒香。才見他。燒香者。

六、葛害共謀叛反支諭七人多與本草喜沮夫不善丁無者○此則無賴

唐人詩集卷之二

財團法人福岡協調會出張所

十三、必要ある場合は郵便貯金にされたし
直傷入院患者の附添人には健康保険法規により一日八拾

筆の附添料を文繪されたり

十五、不上り賃金は就夫の請求に應じ即時清算し賃金を支拂は

れだし

卷之三

十六、上三筋筋盤道に倒り崩壊せしゆられたる婦人婦女は崩壊的腰痛手術を以て腰痛を治癒なくされたるものである。

以て當時に送つて一應各其意風を圖る所傳着者には著
告手首、時傳旅費を文繪されたし

「附帶事項」

財團法人福岡出張所